

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-146137
(P2001-146137A)

(43) 公開日 平成13年5月29日 (2001.5.29)

(51) Int.Cl.⁷
B 6 0 R 11/06

識別記号

F I
B 6 0 R 11/06

テーマート* (参考)
3 D 0 2 0

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-330567

(22) 出願日 平成11年11月19日 (1999.11.19)

(71) 出願人 000005326

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山二丁目1番1号

(72) 発明者 高麗 靖行

埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会
社本田技術研究所内

(74) 代理人 100067356

弁理士 下田 容一郎

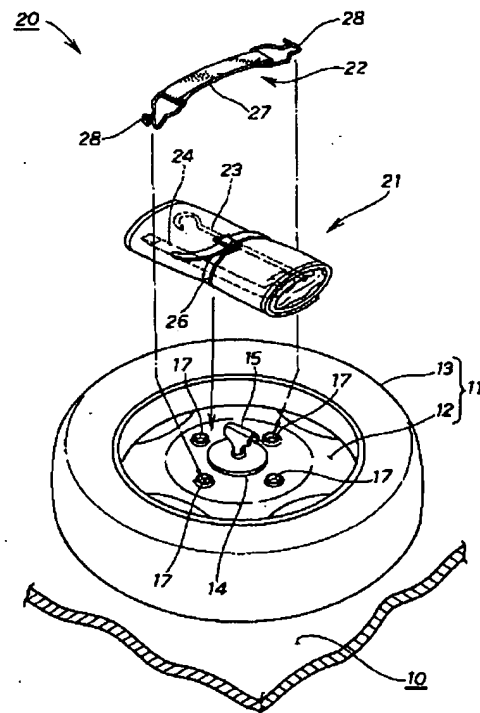
Fターム (参考) 3D020 BA15 BC21 BD14

(54) 【発明の名称】 車載工具の取付構造

(57) 【要約】

【解決手段】 工具袋21若しくは工具箱に工具類23, 24を収納し、収納済みの工具袋21若しくは工具箱をスペアタイヤ11のディスクホイール12に載置し、このディスクホイール12に結合部材22で取外し可能に取付けるようにした。

【効果】 径の異なるスペアタイヤに共通で使用できるようにすることで取付構造の共通化を図ることができ、スペアタイヤのディスクホイール内のスペース効率の向上を図ることができ、さらに、収納する車載工具の種類又は数について汎用性を広げることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 工具類を収納する工具袋若しくは工具箱を、結合部材でスベアタイヤのディスクホイールに取外し可能に取付けたことを特徴とする車載工具の取付構造。

【請求項2】 前記結合部材は、ディスクホイールに開けたボルト孔に引っ掛けるフックを両端に備えた伸縮自在のバンドであることを特徴とする請求項1記載の車載工具の取付構造。

【請求項3】 前記バンドを、前記工具袋若しくは工具箱に一体的に取付けたことを特徴とする請求項2記載の車載工具の取付構造。

【請求項4】 前記結合部材は、ディスクホイールに開けたボルト孔に嵌合するクリップと、このクリップに取付けたバンドとからなることを特徴とする請求項1記載の車載工具の取付構造。

【請求項5】 前記結合部材は、バンドを備えたプレートと、ディスクホイールに載せた状態での前記プレートを車体に固定するスベアタイヤ固定ボルトとからなることを特徴とする請求項1記載の車載工具の取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、スベアタイヤに車載工具を取付ける車載工具の取付構造の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】図12は従来の車載工具の取付構造の分解斜視図である。従来の車載工具の取付構造100は、スベアタイヤ101のディスクホイール102に工具ケース103を収納し、この工具ケース103に車載工具104、105を収納するものであり、工具ケース103は、ポリプロピレンなどの発泡樹脂で成形するものであって、ケース壁面103aをスベアタイヤ101のディスクホイール102形状に合せ、ケース上面103bに車載工具104、105を収納する凹部103c、103dを形成したものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記技術では、工具ケース103は、成形品を用いるためスベアタイヤ101の専用部品となり、車両によってタイヤ径が異なる場合には、径の異なるタイヤごとに新たな工具ケースを設けなければならない。これでは、多種類の工具ケースが必要になり、構造の共通化を図ることができない。また、工具ケース103がディスクホイール102を埋めることになり、車載工具104、105と一緒にウエスや手袋等を収納しようとしても、収納することができず、ディスクホイール102の空間が有効利用できない。さらに、種類の異なる車載工具は収納することができない。車載工具に増減があった場合に、増加した工具が収納できなかったり、空きスペースが発生したりする。すなわち、収納できる車載工具の種類又は数につい

て汎用性が乏しい。

【0004】そこで、本発明の目的は、径の異なるスベアタイヤに共通で使用することができ、スベアタイヤ内のスペース効率がよく、収納する車載工具の種類又は数について汎用性に富んだ車載工具の取付構造を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために請求項1の車載工具の取付構造は、工具類を収納する工具袋若しくは工具箱を、結合部材でスベアタイヤのディスクホイールに取外し可能に取付けたことを特徴とする。工具袋若しくは工具箱に工具類を収納し、収納済みの工具袋若しくは工具箱をスベアタイヤのディスクホイールに載置し、このディスクホイールに結合部材で取外し可能に取付ける。例えば、スベアタイヤのディスクホイール形状に合せて成形した工具ケースに車載工具を収納する場合には、スベアタイヤごとに専用部品となり、スベアタイヤ内のスペース効率が悪くなるものとなり、収納する車載工具の種類又は数が限定されるものとなる。そこで、ディスクホイールに工具袋若しくは工具箱を結合部材で取外し可能に取付けることで、径の異なるスベアタイヤに共通で使用できるようにして取付構造の共通化を図り、スベアタイヤのディスクホイール内のスペース効率の向上を図り、収納する車載工具の種類又は数について汎用性を広げるようにする。

【0006】請求項2は、結合部材が、ディスクホイールに開けたボルト孔に引っ掛けるフックを両端に備えた伸縮自在のバンドであることを特徴とする。スベアタイヤのディスクホイールに工具袋若しくは工具箱を載置し、このディスクホイールのボルト孔にフックを引っ掛け、伸縮自在のバンドでディスクホイールに工具袋若しくは工具箱をディスクホイールに取付ける。結合部材を、ディスクホイールに開けたボルト孔に引っ掛けるフックを両端に備えた伸縮自在のバンドにすることで、工具袋若しくは工具箱ごと移動することもできるようにして利便性の向上を図る。

【0007】請求項3は、バンドを、工具袋若しくは工具箱に一体的に取付けたことを特徴とする。工具袋若しくは工具箱に一体的に取付けることで、バンドを紛失する虞れをなくし、工具袋若しくは工具箱の取扱い性の向上を図る。

【0008】請求項4は、結合部材が、ディスクホイールに開けたボルト孔に嵌合するクリップと、このクリップに取付けたバンドとからなることを特徴とする。ディスクホイールに開けたボルト孔にクリップを嵌合させ、クリップに取付けたバンドで工具類を収納済みの工具袋若しくは工具箱をディスクホイールに取付ける。結合部材を、ディスクホイールに開けたボルト孔に嵌合するクリップと、このクリップに取付けたバンドとから構成することで、工具袋若しくは工具箱の取付性の向上を図

る。

【0009】請求項5は、結合部材が、バンドを備えたプレートと、ディスクホイールに載せた状態でのプレートを車体に固定するスペアタイヤ固定ボルトとからなることを特徴とする。バンドを備えたプレートをディスクホイールに載せ、車体にスペアタイヤを固定するときに、同時にプレートをディスクホイールに固定し、工具袋若しくは工具箱をディスクホイールに取付ける。結合部材の構成部材にスペアタイヤ固定ボルトを利用することで、取付構造の簡素化を図る。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態を添付図に基づいて以下に説明する。なお、図面は符号の向きに見るものとする。図1は本発明に係る車載工具の取付構造の分解斜視図である。車載工具の取付構造20（以下、「取付構造20」と略記する）は、車体10側に取付けたスペアタイヤ11に取付ける工具袋21と、この工具袋21をスペアタイヤ11のディスクホイール12に取付ける結合部材22とからなる。

【0011】スペアタイヤ11は、ディスクホイール12にタイヤ13を取付けたものであり、車体10に取付板14を介してスペアタイヤ固定ボルト15で固定するものである。17…（…は複数個を示す。以下同じ）は、ディスクホイール12に開けたボルト孔である。工具袋21は、工具類としての車載工具23、24を収納するものであり、車載工具23、24を束ねるとともに工具袋21を閉じるベルト26を備える。結合部材22は、工具袋21をディスクホイール12に固定するものであり、伸縮自在のバンド27の両端にボルト孔17、17間に引っ掛けるフック28、28を取付けたものである。

【0012】図2は本発明に係る第1実施例の車載工具の取付構造の正面断面図であり、取付構造20の正面断面を示す。すなわち、取付構造20は、車載工具23、24（図1参照）を収納する工具袋21を、結合部材22でスペアタイヤ11のディスクホイール12に取外し可能に取付けた取付構造であって、結合部材22を、ディスクホイール12に開けたボルト孔17、17に引っ掛けるフック28、28を両端に備えた伸縮自在のバンド27にしたことを示す。

【0013】以上に述べた～10の作用を次に説明する。図3（a）～（c）は本発明に係る第1実施例の車載工具の取付構造の作用説明図（前半）である。（a）において、工具袋21に矢印①、①の如く車載工具23、24を収納する。（b）において、工具袋21に備えたベルト26で車載工具23、24を束ねるとともに工具袋21を閉じる。（c）において、スペアタイヤ11のディスクホイール12に工具袋21を矢印②の如く載置する。

【0014】図4（a）、（b）は本発明に係る第1実

施例の車載工具の取付構造の作用説明図（後半）である。（a）において、結合部材22のバンド27を工具袋21にクロスさせ、フック28、28を矢印③、③の如くディスクホイール12のボルト孔17、17間に引っ掛ける。（b）において、取付構造20は、車載工具23、24（図1参照）を収納した工具袋21を結合部材22でスペアタイヤ11のディスクホイール12に取付けたものであることを示す。

【0015】ディスクホイール12に工具袋21を結合部材22で取外し可能に取付けるようにしたので、径の異なるスペアタイヤに共通で使用でき、取付構造20の共通化を図ることができる。また、結合部材22でディスクホイール12に取付けたので、ディスクホイール12内のスペース効率の向上を図ることができ、さらに、工具袋21に車載工具23、24（図1参照）を収納してディスクホイール12に取付けるようにしたので、車載工具の種類又は数を選ぶことなく、収納できる工具類の汎用性を広げることができる。

【0016】図5は本発明に係る第2実施例の車載工具の取付構造の斜視図である。なお、第1実施例の取付構造（図1参照）と同一部品は同一符号を用い詳細な説明を省略する。車載工具の取付構造30は、（以下、「取付構造30」と略記する）は、スペアタイヤ11に取付ける工具袋31と、この工具袋31を取付ける結合部材32とからなる。結合部材32は、工具袋31に取付けた伸縮自在のバンド37と、このバンド37の両端にボルト孔17、17間に引っ掛けるフック38、38とからなる。すなわち、結合部材32を、工具袋31に一体的に取付けたものであり、工具袋31に一体的に取付けることで、結合部材32を紛失する虞れを回避でき、工具袋31の取扱い性の向上を図ることができる。

【0017】図6は本発明に係る第3実施例の車載工具の取付構造の斜視図である。なお、第1実施例の取付構造（図1参照）と同一部品は同一符号を用い詳細な説明を省略する。車載工具の取付構造40は、（以下、「取付構造40」と略記する）は、スペアタイヤ11に取付ける工具箱41と、この工具箱41を取付ける結合部材42とからなる。結合部材42は、工具箱41の一端に取付けた伸縮自在のバンド47と、このバンド47の先端に取付けたフック48と、工具箱41の他端に取付けたバンド47と、このバンド47の先端に取付けたフック48とからなる。すなわち、結合部材42を工具箱41に一体的に取付けたものであり、工具箱42に一体的に取付けることで、工具袋41の取扱い性の向上を図ることができる。

【0018】図7は本発明に係る第4実施例の車載工具の取付構造の斜視図である。なお、第1実施例の取付構造（図1参照）と同一部品は同一符号を用い詳細な説明を省略する。車載工具の取付構造50は、（以下、「取付構造50」と略記する）は、ディスクホイール12に

取付ける工具袋51と、この工具袋51を取付ける結合部材52とからなる。結合部材52は、ディスクホイール12のボルト孔17に嵌合するクリップ53と、このクリップ53に取付けた一組のバンド54a、54bとからなる。

【0019】図8は本発明に係る第4実施例の車載工具の取付構造の構成部品であるクリップの斜視図である。クリップ53は、工具袋21に収納した車載工具22、23(図1参照)を載置する載置部56、56と、載置部56、56を繋ぐように延出することでディスクホイール12(図1参照)のボルト孔17に嵌合させるようにした嵌合部57とからなる。結合部材52を、ディスクホイール12(図1参照)のボルト孔17に嵌合するクリップ53と、このクリップ53に取付けたバンド54a、54bとから構成したので、工具袋51(図7参照)の取付け又は取外しが容易にでき、工具袋51の取付け性の向上を図ることができる。

【0020】図9は本発明に係る第5実施例の車載工具の取付構造の斜視図である。なお、第1実施例の取付構造(図1参照)と同一部品は同一符号を用い詳細な説明を省略する。車載工具の取付構造60は、(以下、「取付構造60」と略記する)は、スペアタイヤ11に取付ける工具袋21と、この工具袋21を取付ける結合部材62とからなる。結合部材62は、バンド63を備えたプレート64と、ディスクホイール12に載せた状態でのプレート64を車体10(図1参照)に固定するスペアタイヤ固定ボルト15とからなる。結合部材62の構成部品に、スペアタイヤ固定ボルト15を利用することで、取付構造60の簡素化を図ることができる。

【0021】図10は本発明に係る第5実施例の車載工具の取付構造の構成部品であるプレートの斜視図である。プレート64は板状部材であって、本体部65にスペアタイヤ固定ボルト15(図9参照)を貫通する貫通孔66を形成し、本体部65にバンド63の止め孔68を形成し、本体部65にバンド63を備えたものである。なお、バンド63は、止め孔68に引掛ける引掛け部69を備える。

【0022】図11は本発明に係る第6実施例の車載工具の取付構造の斜視図である。なお、第1実施例の取付構造(図1参照)と同一部品は同一符号を用い詳細な説明を省略する。車載工具の取付構造70は、(以下、「取付構造70」と略記する)は、車体10(図1参照)側にスペアタイヤ12を固定するスペアタイヤ固定ボルト15と、この固定ボルト15でスペアタイヤ12に取付けた工具取付板62とからなる。工具取付板62は複数の工具止めクリップ63...を備える。すなわち、取付構造70は、車体10(図1参照)にスペアタイヤ11を取付けるときに、工具止めクリップ63...を有する工具取付板62をスペアタイヤ11にスペアタイヤ固定ボルト15で共締めし、車載工具23、24を

工具止めクリップ63...に直接取付けるものである。

【0023】尚、第1実施例(図1参照)及び第5実施例(図9参照)では車載工具23、24を工具袋21に収納し、第4実施例(図7参照)では車載工具23、24を工具袋51に収納したが、工具袋21、51に限定するのではなく、工具袋は工具箱であってもよい。

【0024】

【発明の効果】本発明は上記構成により次の効果を発揮する。請求項1は、工具袋若しくは工具箱に工具類を収納し、収納済みの工具袋若しくは工具箱をスペアタイヤのディスクホイールに載置し、このディスクホイールに結合部材で取外し可能に取付けるようにするものであり、例えば、スペアタイヤのディスクホイール形状に合わせて成形した工具ケースに車載工具を収納する場合には、スペアタイヤごとに専用部品となり、スペアタイヤ内のスペース効率が悪いものとなり、収納する車載工具の種類又は数が限定されるものとなることを防止した。従って、径の異なるスペアタイヤに共通で使用できるようにすることで取付構造の共通化を図ることができる。また、スペアタイヤのディスクホイール内のスペース効率の向上を図ることができる。さらに、収納する車載工具の種類又は数について汎用性を広げることができる。

【0025】請求項2は、結合部材を、ディスクホイールに開けたボルト孔に引っ掛けるフックを両端に備えた伸縮自在のバンドにしたので、工具袋若しくは工具箱ごと移動することもでき、利便性を向上することができる。

【0026】請求項3は、工具袋若しくは工具箱に一体的に取付けたので、バンドを紛失する虞れはなく、工具袋若しくは工具箱の取扱い性を向上することができる。

【0027】請求項4は、結合部材を、ディスクホイールに開けたボルト孔に嵌合するクリップと、このクリップに取付けたバンドとから構成することで、工具袋若しくは工具箱の取付け性を向上することができる。

【0028】請求項5は、結合部材の構成部品にスペアタイヤ固定ボルトを利用したので、取付構造の簡素化を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る車載工具の取付構造の分解斜視図

【図2】本発明に係る第1実施例の車載工具の取付構造の正面断面図

【図3】本発明に係る第1実施例の車載工具の取付構造の作用説明図(前半)

【図4】本発明に係る第1実施例の車載工具の取付構造の作用説明図(後半)

【図5】本発明に係る第2実施例の車載工具の取付構造の斜視図

【図6】本発明に係る第3実施例の車載工具の取付構造の斜視図

【図7】本発明に係る第4実施例の車載工具の取付構造

の斜視図

【図8】本発明に係る第4実施例の車載工具の取付構造の構成部品であるクリップの斜視図

【図9】本発明に係る第5実施例の車載工具の取付構造の斜視図

【図10】本発明に係る第5実施例の車載工具の取付構造の構成部品であるプレートの斜視図

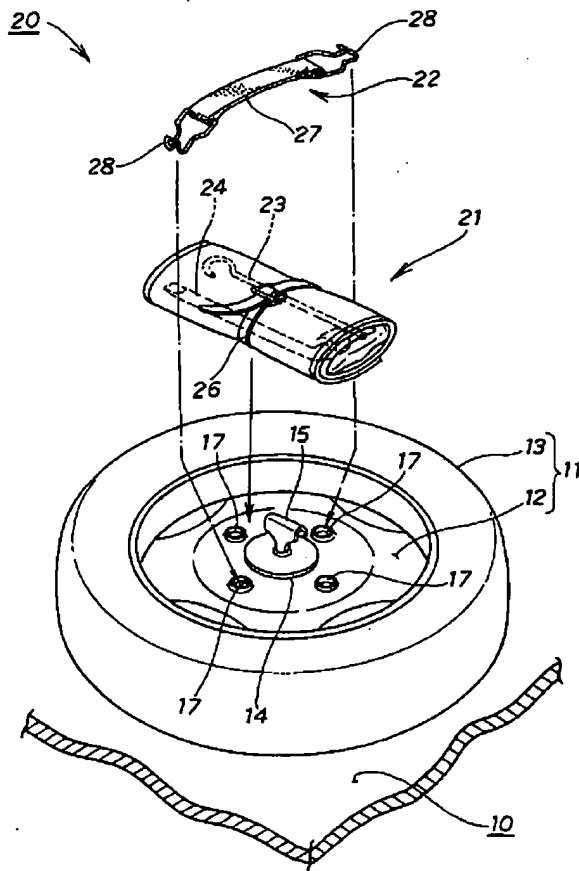
【図11】本発明に係る第6実施例の車載工具の取付構造の斜視図

【図12】従来の車載工具の取付構造の分解斜視図

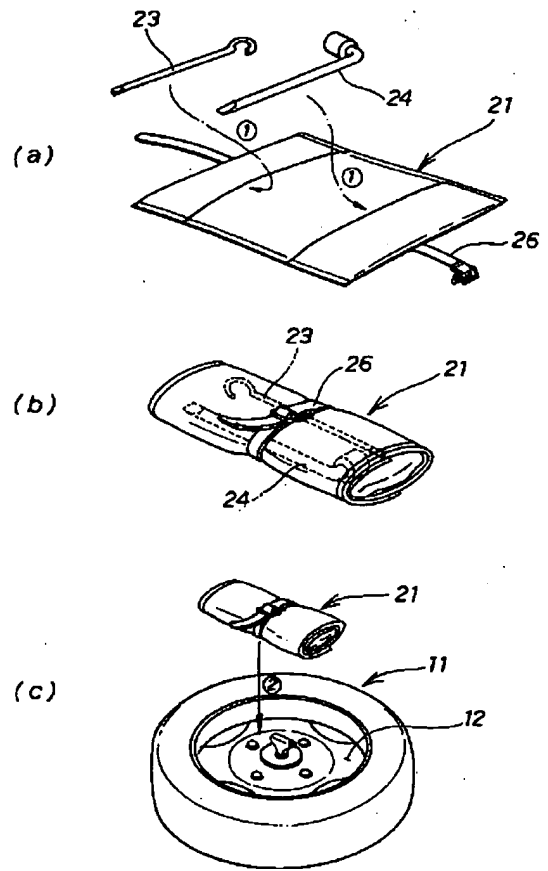
【符号の説明】

10…車体、11…スペアタイヤ、12…ディスクホイール、17…ボルト孔、20、30、40、50、60…車載工具の取付構造、21、51…工具袋、22、32、42、52、62…結合部材、23、24…工具類（車載工具）、27、37、47…バンド、28…フック、53…クリップ、54a、54b…バンド、63…バンド、64…プレート。

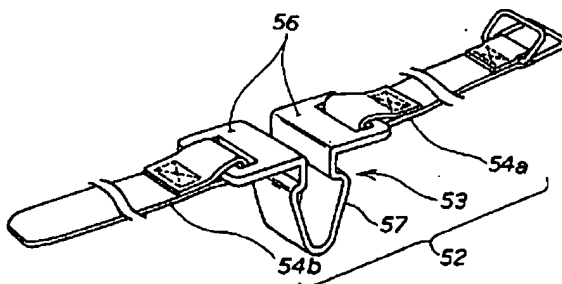
【図1】



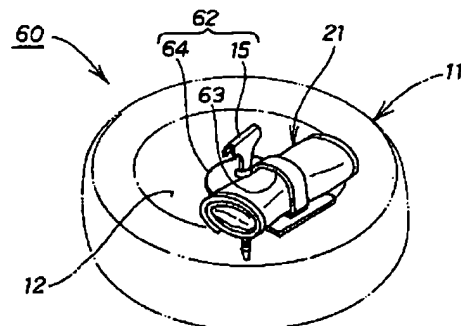
【図3】



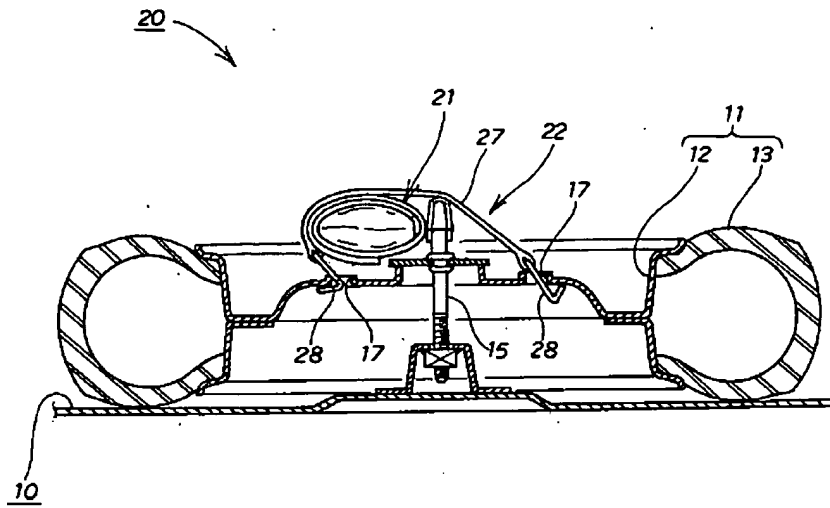
【図8】



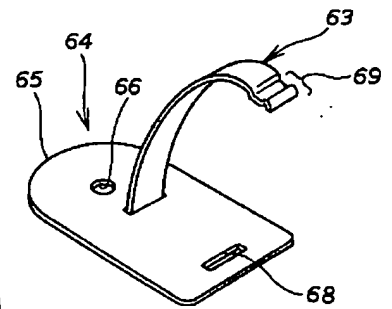
【図9】



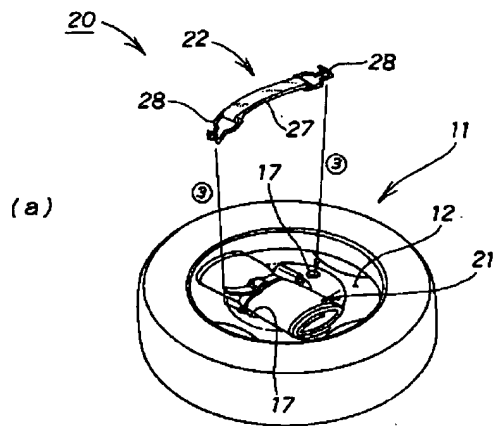
【図2】



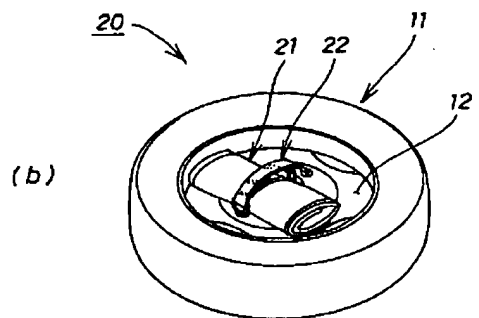
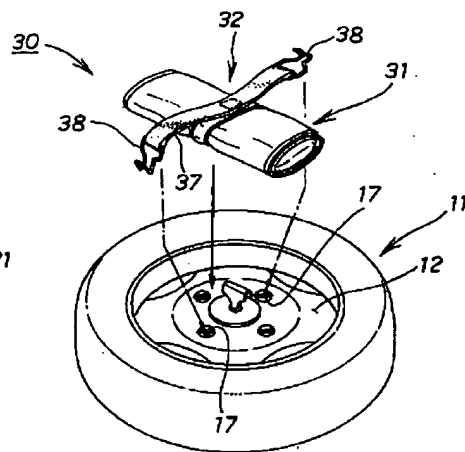
【図10】



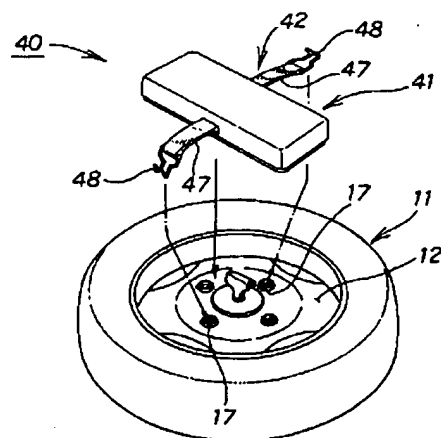
【図4】



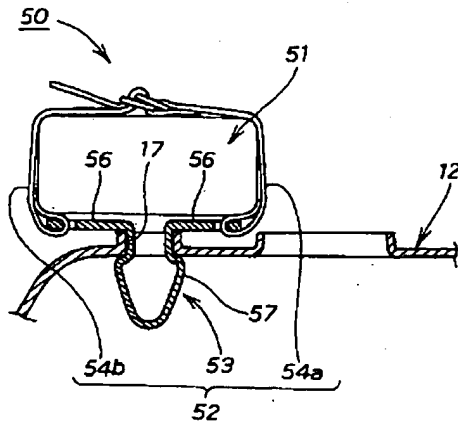
【図5】



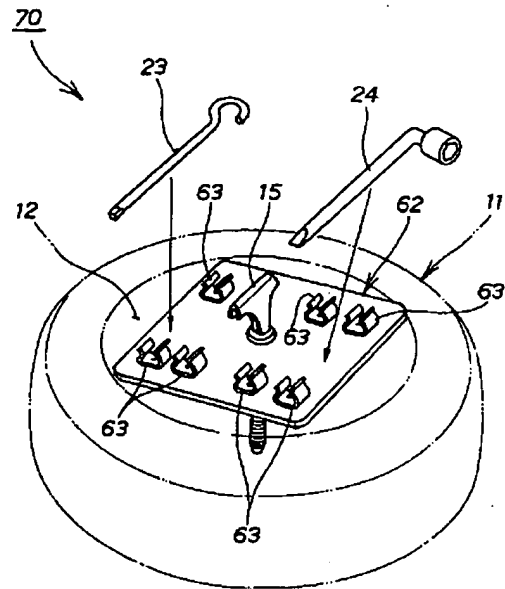
【図6】



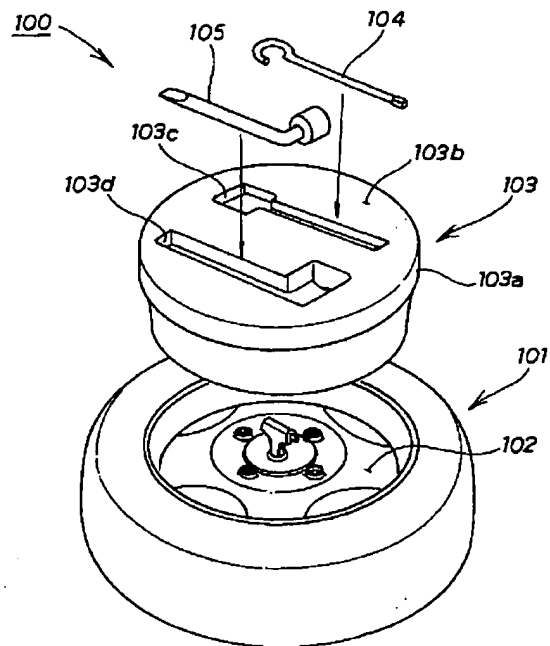
【図7】



【図11】



【図12】



PAT-NO: JP02001146137A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001146137 A
TITLE: ON-VEHICLE TOOL FITTING STRUCTURE
PUBN-DATE: May 29, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KOMA, YASUYUKI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HONDA MOTOR CO LTD	N/A

APPL-NO: JP11330567

APPL-DATE: November 19, 1999

INT-CL (IPC): B60R011/06

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To use the fitting structure in common with spare tires having a different diameter from each other, to improve the space efficiency inside of a disk wheel of the spare tire, and furthermore, to widen the flexibility in kind and number of on-vehicle tool to be housed.

SOLUTION: Tools 23, 24 are housed in a tool bag 21 or a tool box, and the tool bag 21 or the tool box housing the tool is placed on a disk wheel 12 of a spare tire 11, and the tool bag 21 or the tool box is fitted to the disk wheel 12 by a connecting member 22 freely to be removed.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO